# 論文の内容の要旨

氏名：星野 琬惠
博士の専攻分野の名称：博士（生物資源科学）
論文題名：ニュージーランドにおけるワインのフードシステムに関する研究

１．緒論

本研究は、絶対的な需要不足経済下にあるニュージーランドのワイン生産において、政府主導によるワイン・クラスターの形成と環境保全型ワイン生産システムへの転換を軸にした「輸出指向型ワイン産業」の形成が、ワイン産業の急速な発展をもたらしたという仮説をもとに、食料の生産から加工、流通、消費までの全体の流れを分析するフードシステム論の手法を用いて、ニュージーランドにおけるワイン産業の発展過程とそのメカニズムを実証的、分析的に解明したものである。

２．章別考察結果

第 1 章「ニュージーランドにおけるワイン産業の歴史的展開」では、1836 年にイギリス人入植者 James Busby によって最初のワインが醸造されて以降、1900 年代には近代品種導入によるワインの大量生産体制が確立されたが、1960 年のワイン販売に対する政府の法的規制によってワイン産業が停滞を余儀なくされたこと、そして 1973 年の英国の EEC 加盟によって優遇措置が受けられなくなった酪農品に代わる新たな輸出産業の育成を迫られたニュージーランド政府の政策転換によってワイン生産が復活し、2003 年のニュージーランドワイン法(Wine Act 2003)の制定を契機に急速な発展を遂げたワイン産業の歴史的な展開過程と 10 のワイン産地の特徴を整理した。

第 2 章「原料ブドウ生産とワイン製造企業の原料調達」では、ワイン製造企業 699 社に対してアンケート調査を実施し、ワイン製造業の原料調達が自社生産と契約取引（契約栽培）に二極化していること、大規模ワイン製造企業では契約取引による社外調達比率が高く、一方、小規模ワイン製造企業では自社生産比率が高いこと、自社生産と契約取引のいずれの調達方法を選択するかは原料ブドウの調達コストとともに、各社の製品政策、製品差別化戦略、契約期間などの取引条件に規定されていることを明らかにした。

第 3 章「ワインの産業組織－市場構造・市場行動」では、伝統的な産業組織分析の SCP パラダイムを用いて、ワイン製造業の市場構造と市場行動の分析をおこなった。ニュージーランドのワイン市場は上位 6 社による市場集中が進展し、寡占化していることを生産面と販売面から明らかにした。市場集中の最大の規定要因は規模の経済性である。管理費用や販売費用などにも規模の利益が発生し、高位集中が企業利潤にも大きく影響していることが数値的に把握された。次に、ワイン製造企業からのヒアリング調査のデータをもとに、販売先別の販売比率によってワイン製造企業を、直売型、国内市場特化型、受注生産型、海外市場指向型の 4 つに分類した。さらに、企業規模別に年間生産量と平均販売価格をプ

ロットし、相関係数を求めた結果、相関係数は負の値（-0.48997）となり、生産規模が大きくなるにしたがい、販売価格が低下していることが明らかとなった。一方、ワイン製造企業のおよそ 9 割を占める小規模ワイン製造企業は原料ブドウに拘り、メルロー、シャルドネ、ピノ・ノワール、リースニング、ソーヴィニヨン・ブランの５つの品種を使用し、高価格帯のワインを製造し、蔵売り（Cellar Door）やインターネット販売、Mail Order などの多様なチャネルを活用して市場に適応していることが明らかとなった。

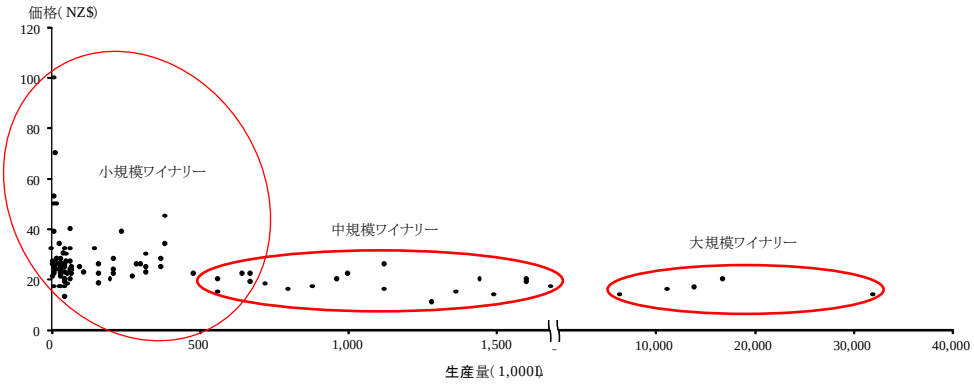


図 1 生産規模別ワイン製造企業の製品価格の分布
資料：Wine Atlas of New Zealand and Wine of New Zealand
及びワイナリー103 社の資料より作成。

第 4 章「ワインの流通とサプライチェーン」では、ワインの 8 割を輸出に依存しているニュージーランドワインには、国内市場向けと輸出市場向けの二つのサプライチェーンが形成されており、安価なバルクワインから輸出単価の高いボトルワインへの転換が進みつつあること、ワインの流通は、直売、蔵売り、Mail Order、インターネット販売、卸・小売、輸出向けなど多岐に亘っていることが明らかとなった。
第 5 章「ワインの需要構造―国内需要と海外需要－」では、ワインの国内市場が飽和状態にあるのに対して、ワインの輸出は右肩上がりの成長が続いており、ニュージーランドワインが国際市場の需要を軸に動いていること、ニュージーランドワインの主な輸出先が英国、オーストラリア、米国の 3 カ国に集中し、輸出シェアが 76%に達していることが明らかになった。さらに、2001 年以降の NZ ドル（対 US ドル）の大幅なドル安が、ワインの輸出拡大に大きく貢献していることが明らかとなった。主要 6 カ国（英国、オーストラリア、米国、カナダ、オランダ、中国）を対象に輸出トレンドを計測した結果、決定係数は 0.8 以上の高い値となり、輸出の成長率が高いという結果が得られた。
第 6 章「政府主導によるワイン・クラスターの形成－マールボロ地区の事例－」では、ハ

ーバード大学のマイケル・ポーター教授が提示した産業クラスターの概念をもとに、ニュージーランドにおけるワイン・クラスターの形成過程に焦点をあてて、ニュージーランド最大のワイン産地 Marlborough 地区の事例について分析した。分析によって、ワイン・クラスターが、入植者によるブドウ栽培とワイン醸造の開始（第 1 段階）、ワイン製造企業の集積（第 2 段階）、イノベーションの進展（第 3 段階）、プレミアムワイン生産への転換（第 4 段階）、輸出拡大期（第 5 段階）の５つの段階を経て形成されたことを明らかにした。さらに、Marlborough のワイン・クラスターの成功要因が、関連産業・支援組織の集積とネットワーク形成による構成主体間の連携・協力関係による相乗効果にあることを定性的、定量的に把握した。これらの分析によって、Marlborough のワイン・クラスターが、ポーター教授が提示した民間主導型の通説とは異なる政府主導型のワイン・クラスターであることを、ワイン・クラスターの形成過程と形成要因の分析によって実証した。

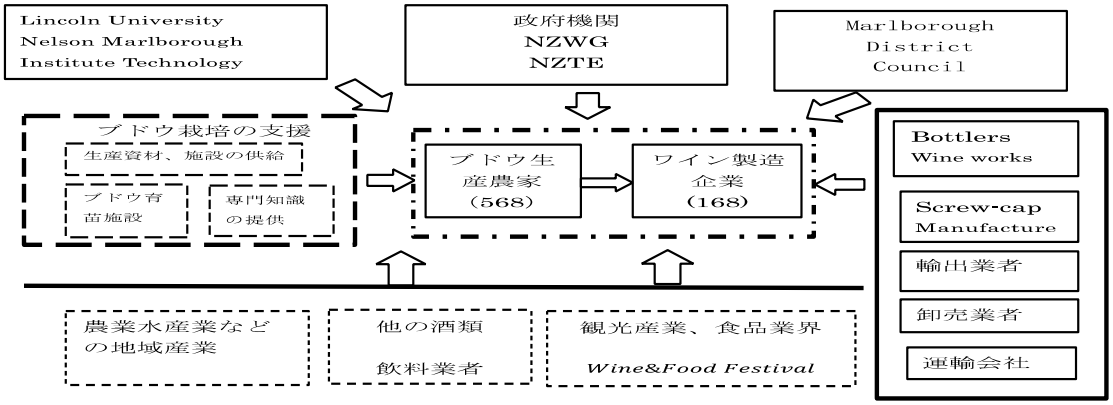


図 2　マールボロにおけるワイン・クラスターの構造
資料：　筆者作成。

第 7 章「持続可能なワイン生産の展開」では、1990 年代以降のワイン需要の拡大によって、ブドウ園への環境負荷の増大、土壌劣化などを背景に、1994 年にニュージーランド政府によって、持続可能なワイン生産の実施に関する法規（Sustainable Wine New Zealand）が制定され、1997 年には持続可能なブドウ生産のコミットメントが採択され、94%のワイン用ブドウが持続可能な農法によって生産されていること、またブドウの有機栽培と有機ワインの生産もおよそ 1 割に達し、すべてのワイン生産が持続可能な環境プログラムのもとで実施されていることを定量的に把握した。

第 8 章「ニュージーランドワインの国際リンケージ」では、FTA などの地域経済統合、グローバル化の進展がワインの貿易にどのような影響を与えているかに焦点をあてて分析した。TPP のオリジナルメンバーであるニュージーランドは、シンガポール、オーストラリア、中国などとの間で 10 の自由貿易協定が発効し、２つの貿易協定に合意している。ニュージーランドは、歴史的な関係の深い英国、オーストラリアにワイン輸出の過半を依存し

てきたが、近年、アメリカ、カナダ、中国等のアジア太平洋地域へのワイン輸出が拡大傾向にあることを主要輸出国への貿易額の変化と貿易フローによって統計的に把握した。
第 9 章「ワイン産業と政府の政策」では、ワインの輸出振興とワインの管理を第一義的な目的に、2003 年に制定されたニュージーランドワイン法に焦点をあてて考察した。ニュージーランドワイン法は、隣国オーストラリアの食品規準（Australia New Zealand Food Standards）にも適用可能な共通の規準であるところに大きな特徴があり、ワインの種類の表示、地理的表示、供給業者の表示、原産国表示、ロット番号の表示、アレルギー物質などの表示を義務づけている。考察の結果、ワイン産業に対する政府の適度な政策的関与が重要であること、寡占化をどこまで容認するか、小規模ワイナリーによる多様性の維持に対する支援策、ワイン・クラスターに対する支援策が重要であることを明らかにした。

３．総括と結論

ニュージーランドワインのフードシステムを経済分析の視点から考察し、ワインのフードシステムを構成している主体間の関係と企業行動を分析し、ニュージーランドのワイン産業がどのような要因とメカニズムと諸局面を通して発展してきたかを明らかにしてきた。分析の結果、ワイン市場の寡占化、政府主導型ワイン・クラスターの形成、海外需要に大きく依存したニュージーランドワインの需要構造、ワイン貿易の多元化といったいくつかの事実を明らかにすることができた。とりわけ学術上の貢献が大きいと思われる研究成果を二つだけ挙げておきたい。第 1 に、ワイン製造業の市場構造が寡占経済への歩みを強めており、ワインの産業組織が一握りの大規模ワイン製造企業と圧倒的な比重を占める小規模ワイン製造企業の市場競争によって形成されていることが明らかとなった。市場集中を促進している最大の要因は規模の経済性である。一方、小規模ワイン製造企業は、製品増脹や高品質ブドウを用いた製品差別化、多様な流通チャネルの活用によって市場に適応し存立していることが明らかとなった。小規模ワイン製造企業の存立要因を明らかにしたことは、新世界ワインの産業組織問題の研究に新たな視点と分析フレームを提示することとなり、従来の研究成果を発展させる意義をもつ。第 2 に、ハーバード大学のポーター教授が提示した「民間主導型」のワイン・クラスターの形成という通説に対して「政府主導型」のワイン・クラスターの形成を理論的、実証的に明らかにしたことは、今後のクラスター研究に新たな方法論的指針を与えるものであり、その学術上の意義は大きい。このことが本研究の伏線的な仮説であり、本研究の到達点になっている。

以上の考察によって、ニュージーランドのワイン産業の発展要因とそのメカニズムを明らかにすることができたと考える。